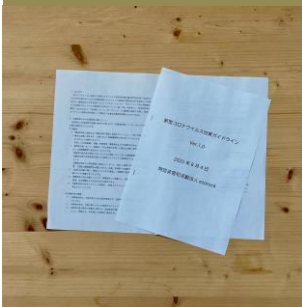


2019年に発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、北海道、日本のみならず、世界各地で感染拡大しました。ezorockでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めつつ、できる限りの活動を実施しました。新型コロナウイルス感染症に関わって実施した取り組みをご報告します。

新型コロナウイルス対策ガイドライン策定



活動への参加を希望する人や活動連携先の団体に安心して活動を実施してもらうために、新型コロナウイルス対策ガイドラインを策定しました。ezorockでは、車両移動がある活動が多くありますが、車両への乗車人数を制限し、活動参加者が密集しないよう工夫しています。助成：一般社団法人北海道総合研究調査会 北海道未来社会システム創造事業

北海道在住の大学生・大学院生を対象とした新型コロナウイルス影響調査

北海道在住の大学生・大学院生対象
新型コロナウイルス影響調査
ご協力をお願い

調査目的
調査対象
調査期間
調査方法

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた大学生・大学院生のコロナ禍の生活の変化や休学・退学についての意識、今後実施する青年層向けの支援の参考とする調査を行いました。結果は現在集計中で、後日公表を予定しています。協力：NPO法人みなと計画 大通チャレンジラボ 13LABO 合同会社Dialoger

浜益ご縁米プロジェクト



新型コロナウイルス拡大に伴い外出制限される中、若者と地域、人々との新たなつながりを創出するためにお米1tを500人の若者の方に無償配布しました。お米の配布後には、浜益の方とお米を受け取った人が参加した「浜益いただきますナイト」を実施し、地域の方と若者の接点を設けることができました。協力：浜益観光まちづくり推進協議会

木製知育玩具 森のピタゴラス無料レンタル



外出自粛に伴い、おうちで過ごす子どもたちと保護者の方のために木製知育玩具「森のピタゴラス」を期間限定で1週間無料貸し出しを行いました。札幌だけでなく、苫小牧や栗山、稚内、帯広、大樹の自然学校からの貸し出しも行いました。本事業は公益社団法人Civic Forceとの共同事業です。協力：合同会社森のピタゴラスほか

つながりのある看護師サポート



マスクや体温計などが流通しなくなった4月～5月に、新型コロナウイルスに最前線に対応している、若手医療従事者を対象に、ezorockで備蓄してあったマスク・体温計を無償提供しました。無償提供は、ezorockで過去にコアスタッフとしてボランティアとして活動した看護師で、道内だけでなく、道外に勤務する看護師も含め、3名に実施しました。

地域づくりの現場でのお仕事説明会・相談会

働く前にできる関わり方
おためし地域おこしインターン

次のステップを探している若者や青年海外協力隊等を対象に、北海道各地の地域づくりに関連するお仕事への就職相談会を開催しました。協力：合同会社北海道観光まちづくりセンターほか

代表の小言

世代の壁をこえる

団体を立ち上げてから20年を迎えました。当時、41歳のオヤジです。「社会課題って」とか「SDGsは」とか、若い人たちに、えらいこと言っていることもありますが、最近強く感じているのは、「若いのにえらいねー」や、「がんばってね」という発言が、多すぎじゃないかと。若い人たちが社会課題に取り組むのは、私たちの前の世代で解決できなかった問題を、次の世代に押し付けているという側面があります。それを傍観し、他人事のように振舞う立場にないのではありませんか。かといって、下手に出すぎてしまうのも、違和感があります。世代間というものは、そのような側面もあるわけですが、私の結論としては、偉そうにもできないし、下手に出るのも変なので「対等に悩みながら、一緒に頑張る」です。おそらく、40代の役割の一つに、「世代をつなぐ役割」を持つていくんじゃないかな。団体も21年目を迎えます。皆さん引き続きよろしくお願ひします。

草野 竹史



関係人口創出プロジェクト
179リレーションズ

今号の写真 厚真町長期滞在プログラムのフィールドとなった放課後児童クラブについての説明を受けている様子

ezorock 事務所

NPO法人 ezorock

関係人口創出プロジェクト「179リレーションズ」

2019年度まで実施していた「ボラ旅北海道」を発展し、新しく誕生した「179リレーションズ」。プロジェクト名が変わって何が変わったのか。目指す姿、これからの展開に迫ります。

ボラ旅から179リレーションズへ

ボラ旅北海道

2011年からezorockで実施してきた「ボラ旅北海道」。都市部の若者と北海道各地の地域をマッチングし、アイデアやマンパワーを届ける事業を実施してきました。これまでに、苫小牧市や下川町、東川町、栗山町、占冠村、大樹町などの様々な市町村で活動するNPOや団体と連携して自然保護や地域のイベントのお手伝い、子どもの自然体験活動などの環境教育や自然体験活動プログラムを中心に実施してきました。

2018年の北海道胆振東部地震では、発災2日後から現地に入り、安平町、厚真町、むかわ町でボランティアセンターの立ち上げ支援や、子どもの居場所づくり活動など地域のニーズに合わせた活動を実施しました。迅速に地域のニーズに合わせて活動を実施できたのは、これまでボラ旅北海道での活動を通じて各地域とのつながりがあったからこそ。ezorockが何をしている団体で、強みは何かを知っている現地の方がいたからです。この時、日常的な活動や繋がりが災害時にも役に立つという意味の「いつものつながりが、いざというときの力に」というワードも誕生しました。

関係人口とは？

「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々のことを言います。人口減少・高齢化により、地方は地域づくりの担い手不足という課題がありますが、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となるのが期待されています。

今後、日本の人口は自然減が続き、2040年には1.1億人程度になると推測されています。この限られた人材を奪い合う移住・定住を促進していくのではなく、また、移住・定住という心理的に高いハードルで解決するのではなく、その地域づくりに関わる人数を増やす「関係人口」で様々な課題を解決していく必要があると言われています。

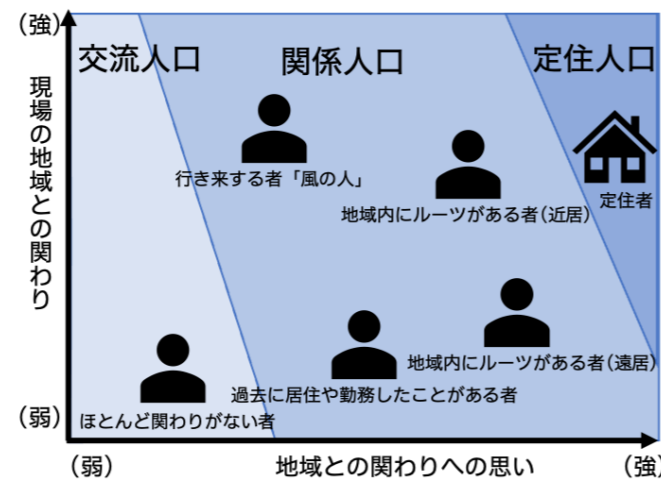
関係人口として地域と関わるには、地域での活動に参加することだけではなく、ふるさと納税などでの寄付や、二拠点居住、頻繁な往来など様々な関わり方があります。

179リレーションズ

179リレーションズでは、住んでいる場所や経験を超えて誰もが対等に地域に関わる「入り口」をつくっていくことを目的としています。その結果、若者をはじめとする次世代の担い手が育ち、変化に強い持続的な地域が作られていくことを目指しています。そのためには、まちに住む方々と外からまちを訪れる若者がお互いに刺激し合い、まちのことを一緒に考えられる関係性づくりが必要であると考えています。

ボラ旅北海道を通じて私たちは、どの地域にも「地味だけどちょっと面白い」、「この人たちにまた会いたい」と思われる魅力があり、そこには地域や自分たちの未来のことを考えて一生懸命活動している方々がいることを知りました。そんな北海道各地と、ボランティアという関わり方にこだわらず、もっと多様で深いつながりを生み出していきたいと思っています。

このため、地域と都市のボランティアをマッチングすることに重点を置いてきた「ボラ旅北海道」から北海道内179市町村で人と人、人と地域をつないでいくという意味が込められる「179リレーションズ」へと名称変更を行い、関係人口創出プロジェクトとして再出発しました。



2020年実施活動例



果樹の摘果お手伝い@石狩市浜益区



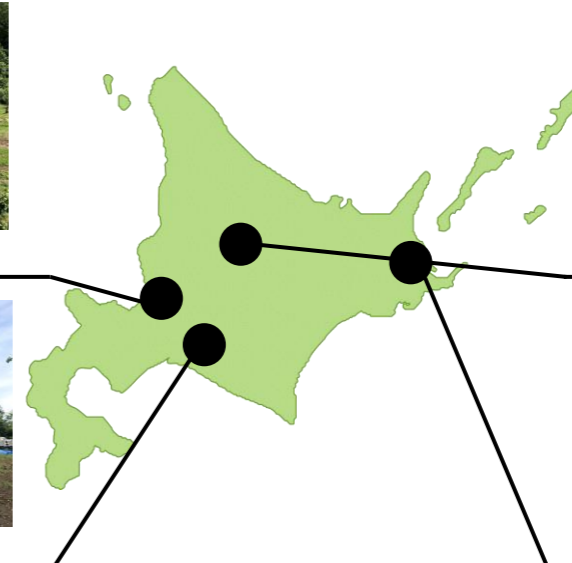
旭岳自然保護活動@東川町



長期滞在プログラム@厚真町



標津ナイトオンライン@標津町



関係人口創出のために

4つの「部」

179リレーションズは、北海道内の地域に関わる「入り口」をつくる仕組みづくりのため、4つの「部」を設けて活動しています。

「システム導入部」は道内の自治体や各地で担い手育成を担当する社会教育セクター（行政・NPOなど）と協力し、地域内の担い手の育成や関係人口創出のための受入体制の整備を行っています。

「WEBマガジン編集部」では、関係人口WEBマガジン「179RELATIONS」の記事の作成、更新を通して都市部に住む地域づくりに接点がない若者向けに情報発信をしています。2020年3月に開設した179RELATIONは2020年12月末現在で41の活動報告や参加者や関係者のインタビューを掲載しています。

「コミュニティ運営部」は、地域づくりに興味・関心がある若者に対して、活動説明会や地域で活動している人を招いての勉強会などを実施しています。道内1つの市町村にクローズアップし、特産品やまちづくりなどに関わっている方をゲストに、語り合う「市町村ナイト」などの交流企画も人気です。

「リサーチ部」は、北海道や活動に参加する若者について調査・データ収集を行っています。

この他にも現地での活動や特定の地域と深い関係性を結ぶチームなどに分かれ、2020年末12月時点で20名のメンバーで活動を行っています。

179リレーションズのこれから

関係人口の「入口」として

179リレーションズとして再出発した今年度は、オンラインの力もあり、活動の幅が大きく広がった1年でした。今後はますます多くの地域との関係づくりや、関係人口創出のモデルとなるような取り組みを実施していきたいと思っています。特に、地域の「入口」になる拠点として「179リレーションズセンター」の開設を目指しています。ひとつは、地域のことを知りたい、まずはつながりのきっかけをつくりたいと思ったときに、気軽に立ち寄れる札幌での拠点。ここでは、179市町村に関わる情報の収集や地域の特産品販売、イベント開催などを行います。そしてもうひとつは、実際に地域を訪れた際、活動のハブになったり、頼れる地域の方がいる各地域での拠点です。こちらは、石狩市浜益区での活動拠点「浜益ベース」など様々な地域の方と共同での設置を予定しています。

北海道の地域と多様な関わり方ができるプラットフォームとして、今後も様々な方と協力しながら活動していきます。

Volunteer voice

厚真町での長期滞在プログラムを終えて思うのは、参加してよかった、ということです。馬のお世話やしいたけの収穫など、行かなかったらできなかった新しい経験。学童での子どもたちとの交流は正解がなく、葛藤した経験。厚真の人と出会うこと、過ごすことでまた帰ってきたい居場所ができた経験。実際の厚真町を見て、聞いて、知って、感じて、考えることで、一回り成長できた気がしました。共同生活も含め、人と繋がることは面倒だと思ふかもしれないけど、その何倍も良いものだと感じた2週間でした。(長期滞在プログラム@厚真町参加者)

関係人口WEBマガジン 179RELATIONS 更新中!

北海道179市町村の人と活動を発信するWEBマガジンを立ち上げました! 実際に活動したメンバーの声や活動報告、インタビュー記事なども掲載。掲載されている記事は遠い世界ではなく、「ちょっと真似してみたい」そんな記事を目指して更新しています。

